

はじめまして! 私たちは、ルチーダフレンズです。

山口情報芸術センターでおこなわれている長期参加型プロジェクト“meets the artistシリーズ”。
佐藤時啓「カメラオブスクラプロジェクト」において主に運営をしているコラボレーターグループです。ボ
ランティアで活動していて、年齢は20代から50代、大阪や福岡からの参加者もいます!

“ルチーダフレンズ”は、アーティスト佐藤時啓さんとともに「山口の光景」をテーマに現在進行形で活動中
です。

市民の企画として発案され2004.6月スタート。この10月には、アートふる山口『でっかい「カメラ」に入っ
てみよう!!』のワークショップ出展。いよいよ活動の折り返し地点をむかえました。

これまでの内容を振り返り簡単にご紹介しつつ、2005.3までの活動予定をまとめてみました。

今後も「見慣れたまちの風景なんだけどいつもとちょっと違うなあー。」と再発見できる視点を、まちのど
こかで皆さんといっしょに探っていきます。



ルチーダフレンズ

meets the artistシリーズ「カメラオブスクラプロジェクト」

2004.6~2005.3 までの
活動/予定とルチーダフ紹介

発行日:2004.11.03
発行元:ルチーダフレンズ
問合せ先:山口情報芸術センター
〒753-0075 山口市中園町7-7
TEL:083-901-2222 FAX:083-901-2216

佐藤時啓氏

1957年山形県生まれ。東京芸術大学大学院美術
研究科修了。写真やカメラを通して、人々のコ
ミュニケーションや視線の交錯をテーマとし、
展覧会やプロジェクト活動、ワークショップな
ど幅広い活動を行なっている。「ハバナ・ビエ
ンナーレ」(1997)ほか多数。2003年には、第20
回現代日本彫刻展にて宇部興産株式会社賞を受
賞している。現在、東京芸術大学先端芸術表現
科助教授。



●お願いです!

まちのなかで突然撮影をお願いすることがあるかもしれません。

なるべく先に伺って概要の説明をさせていただきます。

ご協力をお願いいたします。

by ルチーダフレンズ



新規メンバー随時募集中

お問い合わせ先は山口情報芸術センター TEL083-901-2222

info@ycam.jp 「カメラオブスクラプロジェクトメンバー募集」宛



市民の企画

主なプロジェクトのながれ

2004. 春 市民の企画としてスタート
 6月 佐藤時啓アーティストレクチャー
 「表現:見ることと見られること」
 7月 「ルチーダフレンズ」結成
 全国のアートボランティアについて研修
 ワークショップ研修
 「オブスクラマキナ」完成 佐藤さん来山

7月21-25 ワークショップ 1

8月 佐藤さんとともに「山口ちょうちんまつり」を散策後ミーティング

9月 ビデオカメラ研修 2日間開催

佐藤さん来山 アートふる山口会場視察

10月02 ワークショップ 2

10月03 ワークショップ 3

11月～ 『路地裏を散歩して、四歩めを描き出そう!!』

ワークショップ 4

2005. 2月 佐藤さんと共にプロジェクト作品展

2005. 3月 活動終了

「かぶるカメラをつくってみよう!」 for 5 bays

場所:山口情報芸術センター ホワイエ 参加者:133名

ダンボール・虫眼鏡・トレーシングペーパーをつかって、かぶるカメラをつくりました。
 かぶってみると風景が逆さまにうつっていたよ。カメラをかぶった姿は、箱人間だあ。
 親子で楽しめました。夏休みあけには、学校にカメラを持っていく姿も。



『でっかい「カメラ」に入ってみよう!!』

in アートふる山口 初出展!

場所:中市第二駐車場 参加者:約200名

パネル展示枚:4枚 体験:単眼鏡/かぶるカメラ/でっかいカメラ

「でっかいカメラ」とは、佐藤時啓さん制作のワンダリングカメラのこと。見た目がUFO!?人が10人乗りこめる巨大なカメラ。茨城県取手市から佐藤さんの車に牽引されてやってきた。「いつものまちの風景に新しい発見があればいいなあ。」そんな思いで、佐藤さんと学生さんたちとワークショップを行なった。中市第二駐車場は、山口になじみのある川端市場・公設市場の前。時を重ねて味わい深くなった町並みが残っているところ。

カメラの体験時間は、約10分。待ち時間は、ルチーダメンバーでつくった単眼鏡やかぶるカメラの体験をしてもらう。「不思議だね。こんなふううつるんだあ!」靴を脱いでカメラに乗り込む。カーテンが閉められた瞬間、周りの光景を床面に映し出す。「うあー!」歓声があがる。カメラの頭の部分にある360度回転するレンズが、とらえた光を映像にする。光景が移動していく。空はくもりで心配していたけど、信号機やブレーキランプの光がいつもよりきれいに見える。イルミネーション?白い紙を手にもってピントを合わせたりすると光景が面白いくらいに変化する。楽しめましたか?カメラから出てきた皆さんの顔は、にっこり!皆さんは今日、まちの風景をどんなふう感じたのでしょうか。ちょっとしたことなんだけど、いつものまちの風景も何だか映画のワンシーンのように見えてくることはほかにもあるよ。さあ、みんなさんも見つけてみませんか?

//アンケートより//

- ・恐竜になってまちを歩いた気分。
- ・不思議な世界にはいったみたいで楽しかったです。
- ・何でもない風景が芸術になるんだなー。
- ・カメラの世界がひろがった。



でっかいカメラで撮影しよう! 参加者:ルチーダフレンズ

快晴の下、銀色のボディを輝かせたカメラは秋吉台の奥道にはいつていった。
 昨日の町の風景とは変わって、カメラの中は美しくならんだ秋の雲と秋吉台のうねりに映る雲の陰影や明るい陽光が、雄大さを一層感じさせる。一点の光は手にもつ鏡。
 撮影をした。「あの雲がなくなったら撮るよー!」印象的な言葉だった。撮影のあと、草原でお弁当を食べた。みんなで食べるお弁当は本当においしかったね。



at 秋吉台

強い風と雲が空をおおっている中、遠くの青海島や萩の島たちは陽光に浮かび上がり美しい。
 傾く陽と雲にせかさながら撮影。これほど光に時間を感じたことはなかった。
 帰り道、千畳敷の上から見た夕やけがとってもきれいで、寒さで凍えていた体をあっためてくれました。



at 千畳敷



ヤマグチって散歩したくなる町だね。
 歩いていると、いつもの路地裏が言葉を語りかけてくる。
 特別なものを見るのじゃないけれど、当たり前の町並みが特別な言葉を持っている。
 すき間が心地よいのかな。
 幅広過ぎない道路を歩くと家並みがあって、その壁が心地よい間(あいだ)を作る。
 何にも無いと駄々広すぎて間(あいだ)が無い。
 かと言ってゴジャゴジャし過ぎていても間(あいだ)が無い。
 ここにはほど良い空間がある。

佐藤時啓

今後、まちのなかへ出かけてカメラで撮影をしていきます。商店街や路地裏など、場所はメンバーの視点にまかされます。どの時間、どの部分をフレームに切り取って、それがどんな作品になっていくのかはお楽しみ。カメラのレンズをとおすことで、きっと違った部分が見えてくるはずです。そして、その写真を佐藤さんと一緒に1月から作品にしていきます。来年2月には、YCAMにて公開展示する予定です。ぜひ、その際にはご来場ください。

主催 文化芸術による創造のまち山口実行委員会
 文化庁、山口県、山口市
 財団法人山口市文化振興財団
 助成 エネルギア文化・スポーツ財団
 後援 山口市教育委員会
 企画 山口情報芸術センター
 山口情報芸術センター市民委員会